



## 東南アジア 5泊6日!

みちぼー&良ちゃんの  
初めての海外旅行

2000年  
10/22~27

旅行前日 (2000.10.21)

「明日私は旅に出ます」などと言えどもかっこいいのであるが、初の海外旅行で付いて回るだけのツアー。それでも誰がナント言おうと国際人の仲間入りを果たす事には変わり無いのだ。明日私は国際人になるのです。

緊張のあまり眠れそうにない。

1日目 (2000.10.22)

午前5時起床、いよいよ出発の日がやってきました。午前6時大分を出発です。何日も前から準備万端に整え、今日の日を待ちわびたトランクを？積み込み、まだ薄暗い中を福岡に向けてマイカーはスタートしました。

午前8時福岡に着いた。親友である加藤君の会社の駐車場に着くと、

休日にもかかわらず眠そうな眼差しで加藤君が待っていてくれた。マイカーを預け空港まで送ってもらおう。

福岡空港国際線ターミナルに到着。国際線南ウイング27番ゲートには添乗員の牟田さんほか同行のメンバーの方々が既に到着している。

いよいよ日本を離れる時が来たと思うと、胸が踊る。添乗員の牟田さんから声がかかり、これからの旅行中の説明が始まった。刻々と出発の時刻が近づいてくる。

福岡発CX511便・台北経由にて香港へ。搭乗手続きを済ませると、いかにも旅慣れた旅行者を装いながら機内へ。

午前10時45分、おおよそ50人を乗せた大きな機体が滑走路に向けて動き始めた。さあ記念すべき一瞬です。飛行機は一路台北へ向け離陸。飛行機が離陸する瞬間いつも思うことなのだが、この重い鉄の塊が宙に浮く…？不思議だ。

機体は急角度で上昇を続ける。地上の建物がどんどん小さくなって行く。窓から覗くと外は一面雲の絨毯を敷き詰めたようだ。離陸後、何層もの雲を抜けると高度は1万メートル



キャセイパシフィック 福岡発CX511便

ルを超えた。既にベルト着用のランプも消え、スチュワーデスがユニフォームを代えて動き回ると機内はそれまでの緊張が和らいだ。

今日は朝が早かったせいはいくらかお腹が空いてきたようだ。時間を見るともう11時30分を回っている。周囲を見回すと機内食が配られる始めているようだ。いままで国内線にしか乗ったことの無い私には、どんな機内食が出てくるのか興味津々だ。配膳のカートが近づいてくる。

スチュワーデスがメインの食事の



選択を尋ねてきた。「FISH? or CHICKEN?」…一瞬と惑ってしまった。しかしそこは国際人である私は、慌てず、動揺を悟られないよう装いながら「FISH ONE CHICKEN ONE」と笑顔で答えた。ほんの一瞬の緊張ではあったが、一気に空腹感が頂点に達した。

實際の機内食!と思いきや、な・なんと!かわいなお弁当?ではないか。アルミの蓋らしき容器を開けると、オー!ビュウチフル!ワンダフル!あめがふる!美味しそうだ事!見た目にはとても美味しそうなお弁当なのだが香りがどうも許しがたい。朝からあまり食べていないお腹はさつきからわめき続けている。香りが悪いの、味がどうのなどと云ってはいられないのだ。一口、口に入れてみる。ん!意外と美味しいではないか。

空腹感に侵され、まるで餓鬼のような顔が見るうちに喜喜とした穏やかな顔に変わっていった。

テーブルの上にはかわいいお弁当のほかに、サラダと小さなロールパンにバターそれにデザートが同様に小さな容器に入れられている。

傍にスチュワーデスがまだいて、DRINK?と聞いてきた。ジャパニーズテイ!と滑らかなイングリッシュで答える。スチュワーデスは笑顔で「OK!」。なんと滑らかなこの会話のやりとり!と本人だけがご満悦。

横目でスチュワーデスの手元を見ると、ビールもあるではござらぬか!



プリーズ!プリーズ!ギブミー・ビール・プリーズ!と声にならず心の中で叫んでいました。だって、お茶とビールの組み合わせやっぱりオカシイ!ここは九州男児!ぐつとこらえて男の子!武士は飲まねど爪楊枝!?なんのこつちゃ!……………

とか何とか言っているうちにゼーンぶ平らげてしまった。機内食もいもんだ。でも、食事中飛行機が揺れた時は一瞬どきとしたな。お茶はこぼれるは、落ち着いて食べてられないジャン!ジャン!……………

そうこうしているうちに、飛行機は高度を下げ始めているようだ。

經由地の台北に向け時間もそろそろ2時間になる。窓の外を見ると、台湾の北部海岸が見えてきた。台湾の東側から南下し空港に降りるようだ。初めての異国の地、台湾。機体はどんどん高度を下げる。車輪の出る音が体に伝わってくる。いよいよ着陸体制に入った。台湾の町並みが眼下に広がる。高層の建物はあまり建っていないが、かなりの建物が密集している。ズンツとした振動が伝わってきた。着陸。

目で見る台北の空港はローカル空港の感じがする。約1時間の待ち合わせの間、一旦機内の外に出て見ることとした。再搭乗用のカードを受け取ると、待合室からさらに外の通路に出てみることにした。通路の左右には免税店とティールームが見える。

ティールームはドアや窓もなくオープンでラフな感じがする。壁に貼ってあるメニューを見ると飲茶なども扱っているようだ。免税店はかなりの人で賑わっている。ブランド化粧品はやはり女性の客が多い。土産物を買うのにどの顔も真剣に見える。

タバコのコーナーでマイルドセブンの価格を見ると日本円に換算して170円くらい。やはり安い。民芸品など見ているうちに30分が経過した。そろそろ搭乗が始まる時間だ。

搭乗のゲートへ急ぐことにして免税店を後にした。搭乗口では既に搭乗が始まっている。機内に戻るとスチュワーデスが笑顔で迎えてくれた。元の席に戻ると早速シートベルトを締める。香港に向けての出発の時間が近づいている。

機体はメインの滑走路に向けて移動を開始した。座席上部のシートベルト着用のコール・サインが点滅している。間もなく離陸だ。順番待ちの飛行機が滑走路に入り離陸を開始した。窓越しに離陸を見守る間、メイン滑走路の直ぐ脇でスタンバイしていた機体がいよいよ動き出した。離陸。

機体のスピードが増し体に圧力が掛かってくる。緊張の瞬間だ。機体前方がゆっくり持ち上がり地上を後にした。

台北から香港へ向け順調に飛行は続く。機内はほぼ満席に近い。飛行開始から30分も経っただろうかまたまたワゴンが動き出した。まさか食事？その“まさか”が的中、本当

に機内食らしきものが配られているようだ。何を考えているの？確かお昼のちよつと前に食べたばかりだというのに又食事が運ばれてきた。周りを見渡すとナント何を考えているのか殆どの人がちゃーんと貰っているのには驚くやら感心するやら。ついさつき食べたのに入るわけ無いだろうにと思うが既に食べ始めている人がいる。

ねえ貴方達！どうなっているの？自分達はしつかりとした口調で、しかも流暢なイングリッシュで「ノーサンキュー！」と言ったのはいうまでも無い。そしてドリンクだけをリクエストした。ドリンクを飲みなが



香港国際空港

ら周りの様子を覗いていると、皆さん本当によく食べることに。もつとも飛行機の中ではほかにこれと言ったやること無いから仕方ないかとも思うが、食事を終えた人なんか胃薬なんか服んじやったりしてホントに恐れいりました。

そんなこんな光景を楽しみながら飛行機は一路香港へ。

1998年に開港したらしい香港国際空港はさすが素晴らしい。とにかく広い。関西国際空港の数倍とか。飛行機を乗り継ぐためゲートを出ると乗り継ぎ便のゲートまでシャトルで移動することになった。

シャトル便は浜松町からお台場へゆく『ゆりかもめ』と同じようなシステムになっているようだ。勿論シャトルの中は座席などあるわけが無い。シャトルに乗ってから降りるまでもの2分とかからないのだから。

シャトル便に乗るためにエレベーターを乗り継ぎ地下のホームへ下りる。ホームに着くとシャトルがたった今出発したばかりで次の便まで数分間待つことになった。

ホームを見渡すとちよつとした未来都市のようだ。さすが香港は国際的な都市だと感心する。ホームはゲ



香港国際空港のシャトルトレイン

トを移動する人達で溢れてきた。ホームにシャトルが滑り込んできた。ドアが開き車内にはいると車内の中央には床と天井を結ぶ数本の細いポールが立っているだけだ。乗客の中には窓側に寄りかかったりポールを持ちたりしている人もいる。ドアがしまりシャトルが滑るよう動き出した。

ゲートを移動すると香港発のCX711便の搭乗が始まっている。現地時間15時55分発シンガポール行きに早速搭乗する。

香港国際空港を離れ最初の目的地であるシンガポールまで約3時間あまりの飛行が続く。昼の機内食を取

らなかつたせいとお腹が幾分空いてきたようだ。

香港を発つてから約1時間も過ぎた頃だろうかまたまた機内食が回ってきた。ドリンクはビールとワインをリクエストし早速空腹を満たした。デザートにはハーゲンダーツのアイスクリームが添えられている。食事を終えて気分が落ち着くと眠気が襲ってきた。香港からは座席が中央の席に変わったため外の様子もウオッチング出来ないしシンガポールまではまだまだ時間があきすぎるし、そんな訳で一眠りすることにした。

機内の温度は香港までの時よりも低く設定してあるようでいくら肌寒く感じる。ブラケットを頼んで羽織ると心地よい。30分も眠っただろうか日も随分と傾いてきている。飛行機の窓から少しばかりオレンジに染まった夕日が見える。10分も経つと外は夕闇に変わってきた。シートベルト着用のランプが点滅を始め飛行機は徐々に高度を下げ始めた。手元の時計は8時を回っている。

シンガポールと日本の時差が1時間だから現地時間はマイナス1時間の7時頃になる。今朝、福岡を10時45分に経ちようやくシンガポールに到着する。



シンガポール・チャンギ国際空港

現地時間7時35分、待ちに待ったシンガポール・チャンギ国際空港に無事着陸する。

長かった飛行機の旅から開放されホッとする間もなく入国手続きの列に並ぶことになった。個人での旅行と違いツアーの場合簡単に手続きが済むとばかり思っていたが、パスポートと出国のため事前に記入しておいたカードを持って順に並び一人一人出国審査を受けることになった。やはり初めての経験でいくらか緊張する。周りには何列もの客が並んで審

査を待っている。出国審査を行うこのゲートには恐らく20数列は並ぶだろうと思われる。10分以上待ただろうかようやく自分の順番が回ってきた。

パスポートと出国カードを審査員の前に提出する。審査員はパスポートのナンバーと顔写真のページを開くと手元のパソコンにインプットし何やら記入している。確認のスタンプを押した後パスポートの顔写真と私の顔を見比べパスポートを私のほうに返してくれた。私は旅慣れた国人を装って軽い笑みを残しその場を立ち去った。(カツコイー！)

立ち去り際、後ろを振り向くとナント、ワイフが審査官に捕まり尋問されているではないか。短い手足をばたつかせながら身振り手振り、後で聞くと「審査官が英語で話し掛けてきたものだからもうパニックだったわよ！」心臓はバクバクだったらしい。「シンガポール？ホンコン？リョコウ？」とパスポートとワイフの顔を見比べながら尋ねられたとか、よほど緊張していたのだろう。

勿論、その後「イエス！」と答え「HAVE A NICE DAY！」と言葉が帰ってきたのは言うまでも無い。

出国審査を終えエレベーターへ向かう。うわさ通り空港内はとても清潔に保たれているようだ。荷物を受け取り現地ガイドの説明を受ける。ガイドのトニーさんはとても流暢な日本語で喋りベテランのガイドらしい貫禄があふれている。まだ30歳そこそこの年齢にしか見えない。

空港を出てバスに向かう。空港の外は驚くほどの気温と湿度だ。夜の8時を回っているが恐らく気温は30度を超えていると思われる。バスは空港から市内に向けて走り出した。



シンガポール・チャンギ国際空港からホテルへ向かう

空港と市内を結ぶ道路の左右に植えられている木は、暖かい国の象徴とも言うべき椰子の木かその仲間の木だろう。南国らしさが旅の情景を盛り上げてくれる。ガイドの挨拶が改めてありこれから明後日の午後の出発までの間の説明が始まった。

シンガポールは約100年前までイギリスの植民地で、独立してから1世紀しか経っていない事、また華僑を始めとするシンガポールを構成する人種の事また日本との関わりなどユーモアを交え語ってくれた。生活を覗くと贅沢品は高いがほかは安いので贅沢さえしなければ生活は楽そう。勿論アルコールなどは高いのでビールなど飲む人は近くにセブイレブンなどコンビニがあるのでそちらを利用したほうが良いとアドバイスしてくれた。

これから旅行の間のお金は殆どの場合シンガポールドルを使用する事になるので日本円をガイドが用意してくれた現地ドルに交換してもらう事にした。ツアー客のうちの一部はデラックスコースを申し込んでいるらしくバスは最初にそちらのホテルに向かうことになった。全日空のホテルがデラックスコースの今日の宿泊地で私達スタンダードクラスはさ

らに20分ほど市内から離れている所にあるようだ。バスは市内を走り抜けホテルに到着した。

#### 「ROBINSON INTERNATIONAL HOTEL」

外見から見えるホテルはまあまあではないか。ホテル正面のドアをくぐると10メートル程やや前方にフロントがありフロント前のフロア・左手にはドリンクバーがありその奥にはレストランがある。フロアの右手には小さなドラッグストアがある。早速チェックインの説明を受け、各自へやのキーを受け取るとフロント脇の通路の直ぐ奥にあるエレベーターに乗り込んだ。しかしエレベーターは動こうとはしない。先ほど説明があったがこのホテルのエレベーターのシステムは、ホテルにチェックインしている客に渡されているカードを一度差込んでからボタンを押さないと動かないようになっていた。なるほど管理がよく行き届いているものだと感心する。

部屋に入ると驚くほど狭い。でもスタンダードクラスの部屋はこの程度なのかもしれない。くつろぐ前にビールが飲みたくなり節約のためにセブイレブンまで買い物に行くことにした。バスの中でガイドに交換してもらったシンガポールドルを初

めて使う事になる。

ホテルを出ると一瞬緊張が走る。シンガポール市内から離れているとは言え、街中は暗がりが多いように思われる。ホテルの前を通る車の数は結構多い。ホテル前を左折し、教えてもらったコンビニに向けて歩き始める。バス停のところ信号があり立ち止まると丁度バスが来た。バスの中はいろんな人種？が吊り輪に掴まり、結構な込み具合だ。信号が変わり道路を渡る。振り返ると向かいに果物屋が見える。歩道もあまり良くは出来ていないようだ。



シンガポールのセブイレブン

街路灯も少ないので、歩くのにとっても神経を使う。道路に面する路地は殆ど街路灯が点いていないので、なんとなく不気味な感じだ。10分も歩いただろうか、前方にセブイレブンの明かりが見えてきた。ようやくコンビニにたどり着いた。

店の前に立つと外観は日本のセブイレブンと殆ど変わらない。中に入ると、入り口からアイスクリームのボックスや週刊誌のコーナーがあり、これも日本と同じだ。店内を見渡すと、7・8人の客が入っている。私は一番奥のコーナーに向かった。一番奥にはガラス張りの冷蔵庫が並び、ジュースやビールなど飲み物がぎっしり並んでいる。

目的のビールを色々選ぶことにしたが、見たことの無いようなものばかりだ。ハイネケンビールだけは知っていたが他は知らないものばかりだ。取り敢えず一番高いのと一番安いビールを買うことにした。ツマミとミネラルウォーターと一緒に買い、12ドルを渡す。買い物はTOTALは10ドル60セントで1ドル40セントの釣銭をコインで貰った。初めてみるコインにちよっぴり感動する！

買い物を終え、急ぎ早にホテルま

での道に戻る事にした。来る時に見た果物屋に立ち寄ると、「果物の王様」と言われているドリアンが山盛りになって売られている。日本だと1万円以上もするらしい。初めてのもので、なんとなく躊躇いもあり、結局買うことを取りやめることにした。(私としては本当は食べて見たかったのだ！残念！)

ホテルに戻ると早速ビールを飲む。シンガポールで一番飲まれているビールとか。始めはなじめなかったが、飲んでいるうちに美味しくなった。時間を見ると、ナント11時を回っている。入浴を済ませることにして、バスタブにお湯を張り一日の疲れを取る。風呂上りのビールもなかなか美味しいものだ。やっと旅行第一日目が終わろうとしている。明日からが又楽しみだ。一日の疲労で良く眠れそうだ。明日の為に、オヤスミナサイ！ZZZ...

## 2日目 (2000.10.23)

シンガポールの朝がやって来た。6時30分、日本から持参の目覚ましがけたたましく鳴り響く。7時は同行のツアー客全員にモーニングコールが予定されてはいたのだが、やはり早めに起きてしまう。ゆとり

を持って身支度を整えると、朝食を取りに1階のフロント脇に在ったレストランへ向かう。

まだ時間は7時半前だと言うのに、テーブルは8割方客で埋まっている。同行のツアー客が食事を済ませ立ち上がった。顔が合い、互いに朝の挨拶を交わす。私達は席に着くと、朝食のバイキングのメニューを一通り眺め、各々自分の朝食を調達に出かける。

日本のホテルと特に変わりはないのだが、メニューの中には何と無く怪しげな？見慣れない物もある。やはり一度も口にした事もない食べ物。手は伸びない。とは言うものの、外国に来たのにその国の食べ物を食べないと言うのは意味がない。思い切って、いや出来るだけその国の食文化に慣れ親しもう！...と勇気を奮って、あれも此れもお皿に盛り付け、席に運ぶや否や腕まくりをして、食事に挑んだのであります。

ん？意外と思っていたよりも、美味しいジャン！実は福岡を出発してから、機内食のイヤ〜な香りに些か閉口していたのです。食べてみるとそうでもないのだが、慣れない香りが胃を萎縮させます。ところが一度慣れてしまえば、もうこっちのもの

だ！とばかりに一気に唾液が溢れだし、お腹が大合唱！いつもの朝食はホンの少しとるだけだから、ドウナツテルノ？と自分でも可笑しくなった。最後にミルクを流し込み更にジュースも胃袋に納まりました。大満足！

食事を終えると一旦部屋に戻り、メイドへのチップ2ドルを枕の上に置きトランクの鍵をもう一度確かめロビーに降りることにした。私のいでたちはTシャツの上にポケットのいっぱい着いたベストを着て、肩からカメラを下げただけの、勿論用心の為にカメラは肩に付いているフックにしっかりと固定されているのは言うまでもない。いかにも旅慣れた人！

その印象を否定されないために、表情は目に表れるからキョロキョロしていない、いかにも田舎もんと悟られない為に。当然サングラスを架けている。此れで対策は万全さ！

が私の装いとは裏腹に、ワイフときたら何を考えているのか、旅回りの芸人でも在るまいに、麦藁帽子に大きなリュックを担いで、オイオイ！と声をかけようと良く見たら、ワイフに良く似た違う人。アアおどろいた！私の直ぐ後ろにかわいいリュックを背にしたおばさん？いや奥様が颯爽とお出ましシテイルノデ、ひと安心！。

ホテルの前に立ち、記念写真を一枚撮る。二人一緒に一枚撮ってもらう為に、近くで写真を取っている人に声をかける。気軽に撮ってもらった所までは良かったが、この写真だけピンぼけで、どこで誰が写っているのかさえも定かでないほどの出来映えで？がっかり。

そうこうしている内に出発の時間が迫ってきた。順にバスに乗り込むと、添乗員の牟田さんがメンバーの確認に忙しそうだ。

全員が揃うと、バスは全日空のホテルに向かった。昨日は夜遅い時間にシンガポールに着いたので、街の



なかの様子が良く解らなかつたが、街並みは思っていたより整然としていいる。ガイドの話だと、土地付きの一戸建てに住んでいる人はお金持ちのごく限られた人だけで、一般の人は殆どがアパート住まいらしい。結婚をするとならず入居の申し込みをするとか。一早く申し込んで、アパートに住めるようになるのは6・7年も後になるのが普通らしい。日本と違い、抽選が無く申し込んでおきさえすれば、必ず順番が回って来るので気長に待っているらしい。やはり暖かい国の人達はゆったりしているのですね。



シンガポール国立蘭園 (The National Orchid Garden)

全日空のホテルに着きデラックスコースのメンバーと合流すると早速バスは最初の観光の蘭園 (THE NATIONAL ORCHID GARDEN) に向かった。バスから下りると、まだ朝の9時前だと言うのに暑い。

蘭園の向いは木々が鬱蒼と茂りジャングルのままで、中に踏み入れれば蛇や猛獣が潜んでいて、今にも飛び出して来そうな感じが漂ってくる。入園する前に全員で記念写真を撮る。蘭の花はシンガポールの国花になっていて、12000株を超える蘭が植えられている。良く見て回ると、日本からの蘭も有りました。蘭尽く



しの中を約1時間あまり散策する。気温も徐々に上がり汗でびっしょり。バスに戻ると殆どの人が涼しい顔をしている。しっかり見て周ったのは私達だけ？でも無いのでしょうか、殆どの人は早めに戻り日影で涼んでいたみたい。

バスは蘭園を出ると有名なマライオン公園へ向かう。コースの変更があり、明日行くはずのマライオン公園が今日になった。車中から世界一高いホテルと言われるビルが見えるが、近くを通過しているため一番上が見えない。近代的なビルが立ち並ぶこの景観は、シンガポールな



海に向かって立つマーライオン

らではのものだ。車中からマライオンが見えてきた。思っていたより小さい。公園に着くと観光客目当ての蛇使いが居た。

頭にターバンを巻きいかにも蛇使いらしい出で立ちである。首に巻いている蛇はニシキヘビだろうか、2メートル以上も有りそうだ。胴回りの一番大きい所など直径が15センチは優に有るみたいだ。勇気有る？年配の婦人が、蛇使いの勧めに応じ記念写真を撮り始めた。インド風の衣装を身に付け、首に蛇を巻いてもらっている。本人は意外に終始笑顔である。同行の人達は離れて見守っ

ている。勿論私も笑顔で眺めている。確実に3メートルは距離があったが・・・？

マーライオンはシンガポール川河口の先端でマリナ湾を向き立っています。海に向かって吼えているみたい。頭がライオンで体が魚の妙な取り合わせ？伝説上のシンボルだとか、“ライオン・シティ”を意味するシンガポールのシンボル。海の中からひよっこり現れているところから、「まー！ライオン！」と言うのが正しいのかも。近くで見てもあまり貫禄はないが、何と無くユーモラスだ。

マーライオンの見物を終えると、観光の一つの目玉でもあるショッピングだ。日本人観光客が一番のお客様であるみたい。シルク専門の所らしいが、建物がいかにも田舎の工場跡地みたいな感じがする。中に入ると、まずかわいいお姉さんの前口上があり店内に入ることになっている。店内に入ると売り子さんが15〜6人は入るだろうと思われる。片言の日本語でイラッシャイマセーと笑顔で迎えてくれたが、買い物が目的で無い私は、皆に向かって何処かにイッテラッシャイマセーと心の中でつぶやいた。

ところがである。売り子さん達は絶対逃がすものかと、まるで飢えた狼が獲物を狙うかのような爛々とした目つきで私に近づくものだから、汗がドツと噴出します。でもそこは旅なれた国際人になったばかりの私は、サラリとかわす！だが、敵とぎたら、やはりプロ！駄目だと解るとすばやく目線をワイフに向けた。ヤバイ！

悪い予感が一瞬よぎる。飢えた狼は、もうこれ以上の笑顔は作れませんとばかりの満面の笑みで「あーら奥様。マダム様。とってもお似合い！その品は貴方のための“取って置きの品もの！”絶対お買い得！バッチグーヨ！」とばかりに試着室へ連れ込みました。

試着室から出て来た時は、もう完璧に釣り針に係り釣り上げられる寸前！ヤバ！でも、お似合いの品にご満悦のワイフは幸せそうでヨカッタネ！  
周りを見渡すと、カカツテルワ！カカツテルワ！どんだん釣り上げられています。殆どの人が沢山のお買い物に大満足で、足取りも軽くバスに戻ります。

昼食までの時間、バスは千燈寺院の見学に向かう。道中カラフルに彩

られた寺院が目飛び込んでくる。金色に輝く龍を入り口に施した寺院も有る。家並みに目を奪われている間に、バスは小さな寺院に到着している。バスを降り煌びやかな入り口から中を覗きこむと、高さが10メートル以上は有ろうかと思われる仏像がこちらを見据えて座っている。建物の中に入り仏像を良く見ると、いかにもエキゾチックでユニークな顔をしている。見ているだけで心が休まる奈良の大仏さんとは比べようもない。まず眉が太く目元クツキリ、外人さん？らしく鼻が高い、口は大きく真っ赤な口紅をしっかりと塗っていらっしやいます。



千燈寺院

衣装ときたらイエローとオレンジの鮮やかないでたちです。現地の人達にとっては有りがたい仏像なのでしょうが、こちらの仏像からは私が見る限り日本の仏像と比較してしまいうせいか、仏像から発せられる荘厳さや尊厳・威厳と言ったものが殆ど感じられなかったが、私だけだったのでしようか？旅行の間の安全をお祈りして寺を出る。街中の景色に目を走らせながら、バスは一路レストランに向かう。

時間もお昼を回り、お腹の虫が鳴いています。昼食は初めてのマレー料理です。円形のテーブルに8名づつ順に席に着くと飲み物のオーダーを取りにウェイトレスのお姉さんが



千燈寺院の仏像は約5m 大きい！

回ってきた。アルコールは各自、現金払いである。シンガポールドルでも日本円でもどちらでもOKなのが、現地ドルにて払うのがやはり安いようだ。

私は昨日飲んだ缶ビールを思い出して、慣れない発音で「タイガービール ONE!」と告げる。発音があまりにも流暢過ぎたのか、ウェイトレスは私をしつかり見て指を一本立てた。各自の注文が済むと早速飲み物が運ばれてきた。

口にする間もなくウェイトレスは飲み物の代金を取り立てにきた。本



当にかわいくない性格なこと。同時に居かにも美味しそうなカラフルな料理が運ばれてきた。

小皿に分け食べ始めると矢継ぎ早に次の料理が届く。香辛料がいくらか馴染めないが味は中々行ける。大きな魚の料理が届く。やはり香辛料が鼻につく。周りを見渡すと意外に皆さん平気な顔で黙々と召し上がったいらつしやる。香りが気にならなければもつと良かったのだが、それでもお腹のほうは満足したようだ。

食事が終わるとジョホールバル観光だ。その前に皆さんおトイレタイム! 事前に調べておいた情報通り、イル!イル!トイレの入り口にお婆さんが椅子にドツシリと腰を据えている。でもここは観光地と違いレストランに付属しているトイレだからチップを払うことはない。でもその人ときたらチップをくれと言わんばかりにトイレを覗くわ、何やら喚くわ! 本当にキライ!

全員が揃うとバスはシンガポールのお隣になるマレーシアのジョホールバルに向けて出発です。シンガポールのほぼ中央を南北に走る高速道路に乗り約1時間で国境に着く。お隣さんでも国が違うので出入国の審査



が待っている。バスの中で一次待機している間に現地ガイドが簡単な手続きをして出国審査が終わると、今度は入国審査に向かう。

私達はバスから降りると一列に並び順に入国審査を済ませ急いでバスに乗る。ここでもたまたましているスリなどに遭う事があるらしい。直前に怖いお話をたっぷり聞かされていたものだから、皆さんバックをしつかり抱え込むようにして一目散にバ

スの中へ駆け込みました。全員無事にバスに乗り込むと見知らぬ女性がバスに乗りこんできた。

バスジャック? オーマイゴッド! いいえ現地のガイドさんでした。

シンガポールとジョホールバルは川を隔てただけのすぐ向いに見えるが、数年のうちにこの川も埋め立てられてしまうようだ。橋の横には大きなパイプが3本川を横断している。うち2本はジョホールバルから水を貰い、残りの1本はジョホールバルに戻して居る様だ。ジョホールバルはシンガポールに比べると随分田舎に見える。仕事のためにこの橋を渡りシンガポールへ出稼ぎにきている人が大勢居るようだ。

バスが僅かばかり走ると、もう周りは田舎に似たような印象さえ受け

る。30分も走っただろうか。回教寺院(サルタン・モスク)の白い建物が見えてきた。ブルーの瓦が白い建物に映えている。バスから降りて寺院の正面に回ると、前面中央に4層の塔が寺院を引き立てている。塔の入り口に向かって50メートル程の、一直線に屋根の付いた廊下が延びている。丁度中ほどに四角に切り取られた池らしい空間が有る。